

平成30年度岐阜県英語教育イノベーション戦略事業 「英語拠点校区成果検証事業」に係る第1回拠点校研修会

昨年度まで実施してきた岐阜県英語教育イノベーション戦略事業の継続である、英語拠点校区成果検証事業の拠点校研修会を、9月14日（金）に当校において開催しました。皇學館大學・金城学院大学非常勤講師中西哲彦先生、岐阜県教育委員会学校支援課指導主事、及び岐阜県内の高等学校の先生方にご出席いただきました。

今回実施した内容は以下のとおりです。

(1) 全体会①

○会場校教頭挨拶（中津高等学校教頭 吉田 浩之）

○本日の公開授業について（下記授業者）

○拠点校研究報告（拠点校研究主任）

①CAN-DOリスト

④授業以外での取り組みについて

②授業実践例

⑤これからの取り組み

③パフォーマンステスト

(2) 公開授業

・杉崎 壮芽 教諭：コミュニケーション英語Ⅰ（1年A組）

・佐藤 恭子 教諭：コミュニケーション英語Ⅱ（2年A組）



(3) 全体会②

○公開授業に関する質疑応答

○指導・助言

岐阜県教育委員会 学校支援課指導主事

○指導・助言・講評

皇學館大學・金城学院大学 中西 哲彦 先生



以下、参加していただいた先生方のご感想

<公開授業及び中津高等学校の取り組み全般について>

- コミュニケーション英語Ⅰの授業を拝見させていただきました。ICTも活用され、生徒の目が机よりも黒板（スクリーン）に向いていたことが印象的でした。目線を上げるだけでなく、授業内容も濃いと思いました。重要なポイントをどんどん生徒にリピートさせており、授業内で定着していく様子がうかがえました。
- コミュニケーション英語Ⅱの授業を中心に見させていただきました。「自分の信念は何か」というものに対して英語で話す、書くという活動は深い学びにつながるものだと思います。
- 本文を読むだけでは「遠いどこかで起きている何か」で終わってしまいがちだと思いますが、先生にとって身近な方のbeliefを映像と共に紹介されたのは、まとめのwritingを書くにあたって効果的でした。先生が話される英語もclearで指示も分かりやすく良かったです。

<中西先生からの講評について>

- ループリックを生徒と共有することで、生徒自身がどこを目指して勉強したらよいのか理解できるという話を聞いて、衝撃を受けました。教師自身がどこを評価し、どのように指導するかばかりを考えていましたが、生徒を中心に置いた評価を考えて毎時間お互いが目指すべき点を確認しながら授業を進めたいと思います。
- 基礎、基本の定着こそ、最も大切であり、それを基にして、授業を考えなければならないですが、その際に、社会の中でのコミュニケーションを目指してQuick Responseを設定すべきという点に非常に共感しました。
- 大学入試の転換期ということで、瞬時に判断できるリスニング能力の必要性を感じました。

第2回の拠点校研修会は2月6日(水)実施予定です。

ご参加をお待ちしております。

中津高等学校 英語科